

2007年度 同志社大学大学院

司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程

入学試験 第2次審査

試験問題

法律科目試験

（刑 法）

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけない。
2. 問題紙の本文は、1頁である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
3. 解答用紙は、3枚1組である。
4. 各解答用紙の右上に受験番号の記入欄がある。組になっている2枚目以降の解答用紙の受験番号欄にも受験番号を正確・明瞭に記入すること。
5. 解答は、ペンまたは鉛筆で記入すること。
6. 試験開始後は、終了まで試験場から退出できない。
7. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示に従わない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させる。
8. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。

2007年度 同志社大学大学院  
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程  
入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

---

第1問

Xは、内縁の妻Yとその連れ子であるA（5歳）とともに同居していた。Xは、言うことを聞かずしばしば反抗の態度を示すAに腹を立て、Aを殺害する意図をもって、しばしば行ってきた体罰を加えているようにYにはみせかけて、Aを殴打して殺そうと計画した。Xは、某日、計画どおり、いつものように反抗の態度を示すAに対して激しく殴打したところ、AがぐったりしたのでAは死亡したと思った。Yは、Xに殺害の意図があることは全く認識せず、Xがいつもの体罰を加えていると信じており、これを阻止することは容易であったにもかかわらず制止することもなく、漫然と放置し、Aがぐったりしているのも気絶しているにすぎないと思い、Xの言い付けに従い、買い物に出かけた。その後、Xは、計画を変更し、Yの不在中にAが誤って浴槽に転落して溺死したようにみせかけようと考え、Aを水の張った浴槽に沈めた。鑑定の結果、Aの直接の死因は浴槽に沈められたことによる溺死であった。

XおよびYの罪責を述べよ。

第2問

Xは、行きつけのバーに客として訪れた際、付き合いのある経営者Y子に対して、Yの誕生日祝いの贈り物として、X名義のクレジットカードを使用してYの衣服を購入するよう指示して、同カードをYに手渡した。その後、Yは、某日、そのクレジットカードを呈示してA加盟店で20万円相当の衣服を購入し、売上票にXの名前で署名した。後日、A加盟店がBクレジット会社に同売上票を送付して代金請求を行ったところ、A店の管理する普通預金口座にB社から手数料を差し引いた代金相当額を振り込まれた。また、Yの同カードを使用した約1ヵ月後、B社からX宛にクレジットの支払請求書が送付され、代金決済が行われた。

XおよびYの罪責を述べよ。